

うけおいぬし
請負主さん
にインタビュー

上西だより

～上西校区集落支援員だより～

西之表市地域支援課
上西集落支援員
馬場 信一 編集
連絡先090-9579-3953
上西校区長責任発行

やまなり たけし
山成 健さん
(大花里)



秋になりますと、きぼう館のメンバー・スタッフの皆さんが作業着で出かける様子をよく見かけます。「今日は国上です。」「明日は安城へ。」と話すときの請負の仕事は、どんなきっかけで始まったのでしょうか。

◎おい（私）が宮菌さんの姉と同級生やと。8年前、宮菌さんから「きぼう館のメンバーにでかい仕事はなちゅう？」と相談されて「スナップエンドウがあいばって」ちゅうたどが（と言ったのが）始まり。そこで仕事の流れ（下）を確認したと。



スナップエンドウ

①支柱立て②ネット張り③播種④花を選別して摘花⑤実の収穫

◎主に④と⑤の管理作業をしてもろうと。実は良かどを選ばんばやばって、一年目やからでかい心配やった。そいで二人組を作ってもろうて、傷がある実と小つか実をポケットに入れて、二人で確認しながら収穫してもろうたと。メンバーの衆もだんだん見極めが上手になって、今は収穫後の支柱パイプの片づけとマルチはぎもしてもろうとい。

◎きぼう館に頼む前は、母親と二人でしおったばって、能率が違一や。

やっばい人数には、かなわんろ。メンバーん衆は一生活けんめいやから。仕事が早かる。

◎おいは大花里やばって、同じ大花里のきぼう館の衆が道そうじから通学路のゴミ集め、台風後の片づけをよろ一て（一緒に）してくるいから、わざい（とても）助かつといとや。

ながの ただし
長野 忠さん
(横山)



◎仕事が忙しゅうなつてや。そあん話を一ば友だあに言うたいば「きぼう館の衆がしてくるいはず」ちゅうことで頼一だと。

◎おい（私）はオーギ（サトウキビ）の植え付けを頼一どい。種オーギを120本ばつかいずつ肥料袋に入れて（右写真）圃場を作つて準備すいと。



◎そうせえば、おいがおらんでも、おいの思一とい通りいピシャリ種オーギを並べてくれとい。180 a 分の畑をたった2、3日でしてくるい。その間あ、おいは他ん仕事ででかいもんで、助かいとや。

まつもととしたか
松本敏孝さん
(池之久保)



◎月～金は仕事やもんで土日にしかでけんとやな。デンブン芋ちぎり。去年までは家族でしおったばって、今年や一日曜日ごて一行事があつてでけんじ一、頼一だとや。

◎から切り（＝芋のつるを切ること）と機械で掘ることは先一おいがしとつて、あとは2反（2000㎡弱）の畑をきぼう館の衆がむし一（＝芋から残ったつるの部分を手でむしること）ばつかいにしといと。

◎仕事が早か。2反の一ば半日で済ますいや。そいに仕事がきれいか。芋がらと基腐れ病の芋は、畑の隅に別々にきれ一にまとめて置いといや。後始末はおいがすいばって、わざいしやすか。仕事に慣れといな。

請負の仕事は、きぼう館設立時の宮菌さんと山成さんの会話から始まりました。

きぼう館は就労が困難な方に生産活動の機会を提供し、就労に必要な知識と能力向上に必要な訓練を支援するNPO法人です。メンバーの技能向上とともにそれを活かして請負主から依頼された労働力を心の糧に今後も校区の一翼を担っていくことでしょう。

～種子島きぼう館HPを引用～